

奈良

薨を競い合う古社寺

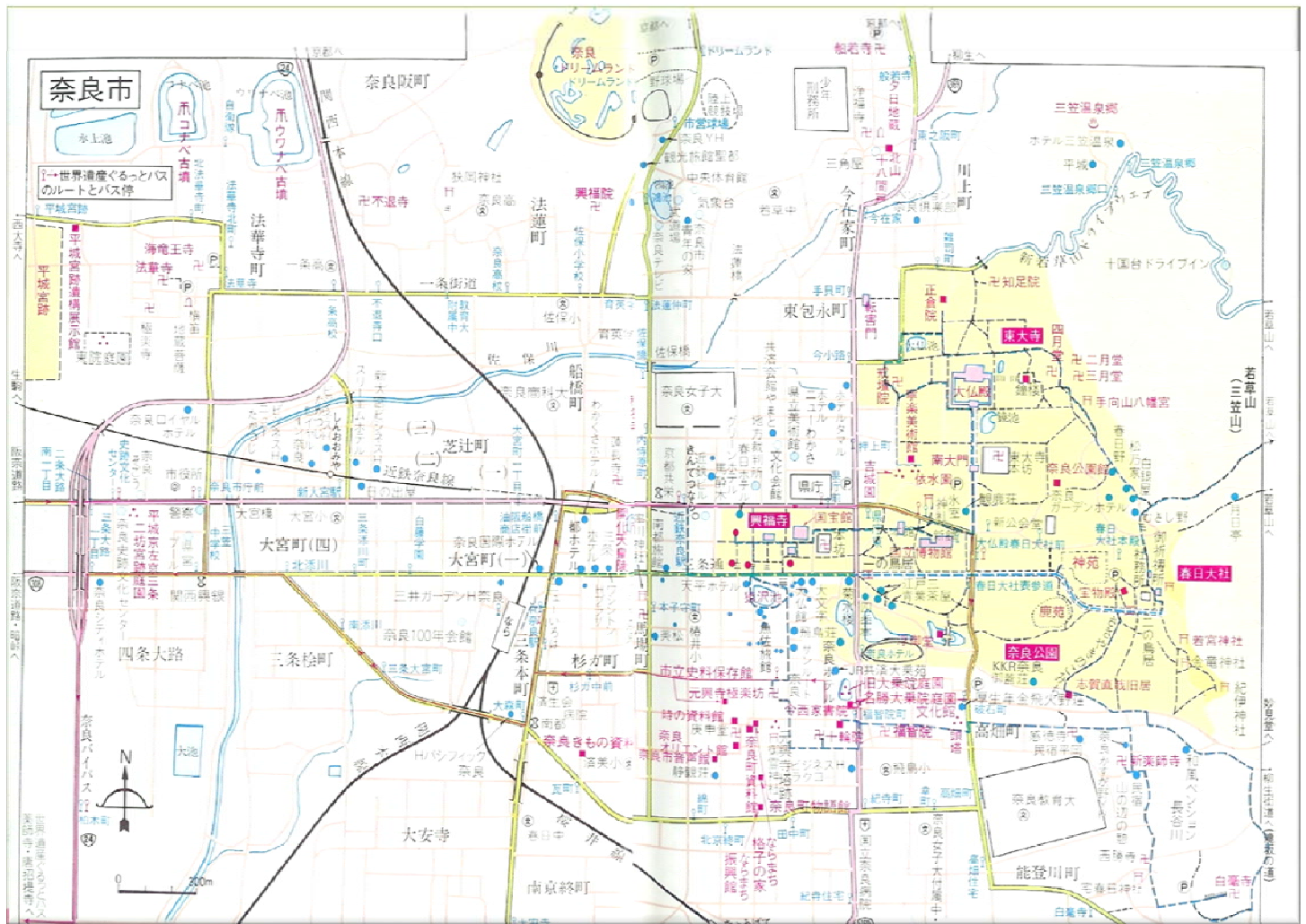
鹿が群れ遊ぶ

あおによしの古都・奈良



奈良公園周辺

平成19年6月1日(金)



奈良公園

奈良市街の背景をつくる若草山も含めた広大な地域が奈良公園になっています。天平の美少年に会える興福寺、壮大なスケールの大仏が鎮座する東大寺、美しい社殿が建つ春日大社、大宮人が遊んだ芝草の飛火野、そこに遊ぶ鹿、五重塔を映す猿沢池……。どれもが天平文化の語り部なのです。

猿沢池 さるさわのいけ

➡近鉄奈良駅から🚶5分

五重塔が美しい姿を映す、奈良のポスターにもしばしば登場する池。元は興福寺南大門前の放生池だったもの。

池の北西隅には鳥居を背にしたうしろ向きの祠が建つ采女神社がある。帝に冷たくされた采女がこの池に身を投げたのでここにまつたところ、一夜のうちに池に背を向けたと伝えられている。柳が枝を垂れる池のほとりにはベンチもあって、のんびり休憩も楽しめる。



興福寺 こうふくじ

●近鉄奈良駅から図5分、JR奈良駅から図15分、市内循環バス県庁前下車図2分

猿沢池に影を映す美しい五重塔がある寺で、東大寺と共に奈良に欠かせない名所になっている。堀や仕切りがない境内には松が茂り、その中に東金堂・北円堂・五重塔・三重塔(いずれも国宝)が建ち、大らかな雰囲気はただよっている。

諸堂の中では東金堂と国宝館が常時公開されているが、どちらも仏像ファンは見逃すことができない。★境内自由

●天智天皇8年(669)藤原鎌足

の遺志で、夫人の鏡女王が京都山科の私邸に建てた山階寺が草創。のちに飛鳥へ移って厩坂寺と改称された。そして和銅3年(710)の平城遷都に際し、藤原不比等が現在地へ移して興福寺と改めた。のちに聖武天皇と光明皇后(不比等の娘)の御願で東金堂や五重塔が建立され、奈良時代には4大寺、平安時代には7大寺の一つとして栄えた。治承4年(1180)の

大火で伽藍は焼失したが、鎌倉時代に復興、大和守護職の任に当たったなど、強大な勢力を誇った。しかし戦国時代から次第に衰え、享保2年(1717)の大火で中心伽藍を焼失。明治の廃仏毀釈では廃寺同然の荒廃ぶりだったといわれている。その後復興され、法相宗の大本山となっている。

●細殿跡と食堂跡に、それぞれ奈良時代の様式に復元された鉄筋コンクリートの建物。仏像・仏画・経典・古文書などの寺宝を収蔵しており、国宝・重文

興福寺東金堂

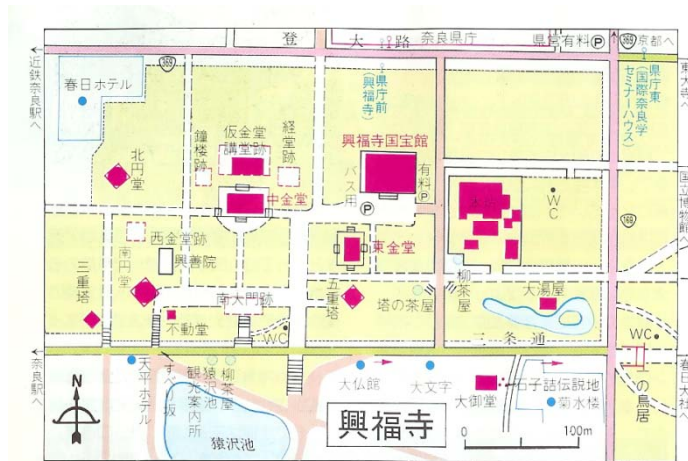


を展示公開している。大和の美少年と称賛される天平期の阿修羅像、白鳳期の秀作とされる旧山田寺の仏頭、天平期の十大弟子像のほか、奈良・平安・鎌倉期の仏像が常時拝観できる。★入館500円、9:00~17:00、約30分所要

●東金堂●神亀3年(726)聖武天皇の発願で建立されたが、落雷や兵火で5度も焼け、今の建物は応永22年(1415)の再建。堂内には重文の薬師三尊と国宝の十二神将像・四天王像などが安置されている。

●中金堂●今は礎石を残すだけの南大門の正面に建っている。藤原不比等が建て、和銅7年(714)に落慶したが、今の建物は文政2年(1819)の再建。今は空堂で、本尊釈迦如来像や重文の薬王・薬上菩薩像・四天王像は真裏の講堂跡に建てられた仮金堂に安置され、毎年春秋の特別開扉(有料)で拝観できる。

●五重塔●猿沢池に姿を映し、奈良公園のシンボルになっている美しい塔。天平2年(730)に光明皇后の御願で建立、今の塔は応永33年(1426)の再建。京都の東寺に次いで日本で2番目に高い(50.1m)五重塔になっている。初層内陣には薬師・釈迦・阿弥陀・弥勒の各三尊像が安置されているが、非公開である。



●北円堂●養老5年(721)元明・元正天皇の御願で建立されたが、今の建物は承元4年(1210)頃の再建。興福寺最古の建物で、美しい八角円堂になっている。堂内には運慶作の弥勒仏、法苑林・大妙相菩薩像、無著・世親菩薩像、四天王像(いずれも国宝)を安置しているが春秋2回しか公開(有料)されない。普段は堀の外から外観を眺めるだけ。

●南円堂●弘仁4年(813)藤原冬嗣が建立した八角円堂。今の堂は寛政元年(1789)の再建で、重文になっている。ここは西国三十三カ所第9番札所になっているため、参詣者が多い。堂内に安置された国宝の虚空蔵菩薩像・法相六祖像・四天王像は10月17日に開扉される。

●三重塔●康治2年(1143)崇徳天皇の中宮藤原聖子の御願で建立。今の塔は鎌倉初

期の再建で、南円堂の西の一段低いところに美しい姿を見せている。初層内陣には薬師・釈迦・阿弥陀・弥勒如来をそれぞれ1000体ずつ描いた極彩色の板絵があるが、公開されていない。

●大湯屋●五重塔の東、本坊の斜め前に建っている昔の浴場。東が切妻式、西が入母屋式の屋根を持った建物は室町中期の再建(重文)。内部には大きな鉄の湯釜が2基あるが、公開されていない。

●大御堂●本坊と三条通をへだてたところにある興福寺の塔頭で、正式には菩提院という。奈良時代に玄昉僧正が創建、今は天正8年(1580)再建の堂が建っている。境内には、13歳の三作少年が鹿を殺したためにその鹿と一緒に穴に入れられ、上から石を詰めて生き埋めにされたという石子詰伝説地の塚がある。★境内自由

24

重文 南円堂

国宝の虚空蔵観音などは年に一日開扉



↑↓ 南円堂 三重の塔側から



興福寺

三重塔

1143年崇徳天皇の中宮
藤原聖子の御願で建立



五重塔

1143年光明皇后の御願で
建立。東寺に次ぎ日本で
二番目 50.1m



↑ 中金堂

← 東金堂



東大寺大仏殿

東大寺

近鉄奈良駅から15分、市内循環バス大仏殿春日大社前下車3分(南大門)

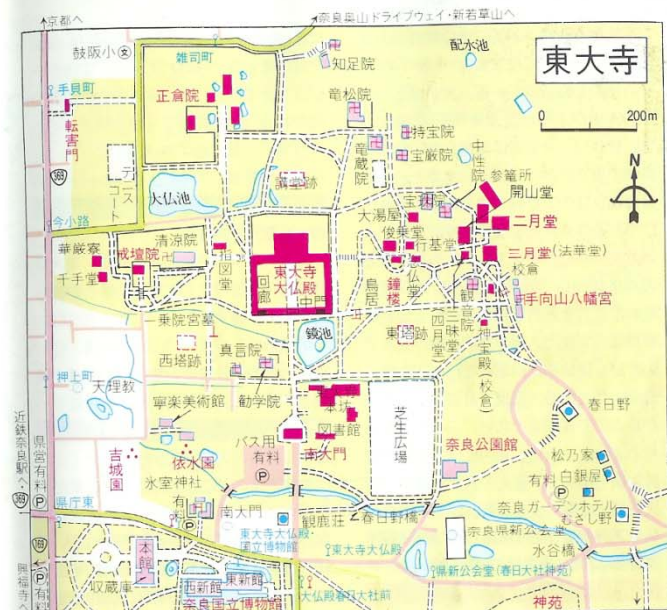
あの「奈良の大仏」が鎮座する寺、といえは知らない人はいないほどの巨刹である。若草山の麓の緑豊かな境内には世界最大の木造建築・大仏殿を中心に南大門・三月堂・二月堂・転害門など、国宝・重文の堂宇が建ち並んでいる。ゆっくりまわれば4~5時間、大仏殿→戒壇院→二月堂→三月堂とピックアップしても約2時間は必要である。★境内自由

歴史●天平13年(741)に全国に国分寺が建てられた時、良弁僧正が開いた金鐘寺を大和国分寺とし、金光明寺と称した。天平15年に聖武天皇が大仏造願の詔を公布し、行基が勧進僧となって、翌年信楽の甲賀寺に大仏の骨柱を建てたが中止。翌17年に金光明寺に造東大寺司が置かれ、造営が開始された。天平19年から2年がかり、8度の焼失で大仏が焼造され、天平勝宝4年(752)に開眼供養が行われた。そして大仏殿や講堂などの伽藍は延暦8年(789)に完成したという。治承4年(1180)平重衡の南都征討で炎上。俊乗坊重源の勧進で元暦元年(1184)に大仏が

開眼したが、永祿10年(1567)に松永久秀の兵火で再び炎上。今度は120年も放置され、公慶の勧進で元禄5年(1692)に大仏開眼、宝永6年(1709)に大仏殿も落慶。ようやく現在の寺観が整えられた。

南大門●高さ25.5mの豪壮な楼門で、中国から移入された大仏様式の代表作とされている。今の門は正治元年(1199)再建の国宝。門の左右には大仏師運慶・快慶一門が建仁3年(1203)に造立した金剛力士像(国宝)が安置されている。高さ8.4mの力感あふれる巨像である。

金堂(大仏殿)●中門からのびる回廊に囲まれて、大屋根に金色の鷲尾をのせた壮大な建物(国宝)が建っている。宝永6年(1709)の再建で、天平期に比べると東西が3分の2に縮小されているが、それでも高さ47.34m・東西57m・南北50.48mの大きさ。堂内の大仏(毘盧舍那仏、国宝)は56葉の蓮華座(高さ3.05m)に坐り、高さ14.91m、重さが452tという巨大なもの。何度も火災にあい、そのたびに補修されており、右手は天正8年(1580)、頭部は元禄3年(1690)の改鋳。大仏に向かって右奥にある柱の根元に、大仏の鼻の穴と同じ大きさという穴があいていて、ここをくぐると幸運に恵まれるとか。大仏殿の正面にある高さ4.6mの金銅八角灯籠(国宝)もお見逃しなく。★拝観400円、4~9月7:30~17:30(10月17:00)・11~2月8:00~16:30(3月17:00)、約15分所要
戒壇院●大仏殿の西、松林の中の石段を登ったところに建っている。天平勝宝6年(754)に唐から招いた鑑真和尚が大仏

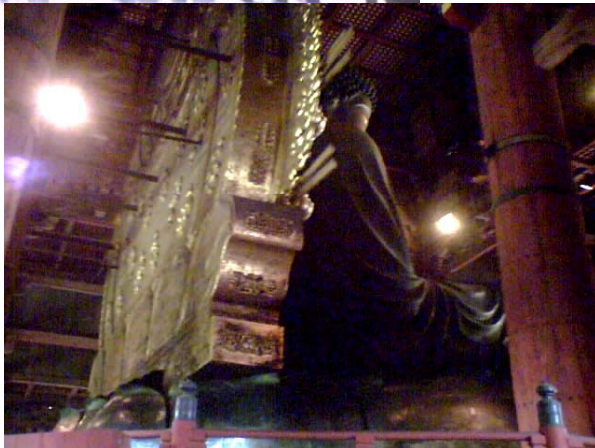


殿前に戒壇を築き、聖武上皇ら400人に戒を授けたが、その翌年に孝謙天皇の宣旨で建立されたもの。今の堂は享保17年(1732)の再建。堂内には3段の戒壇が設けられ、中央に多宝塔、四隅には天平期の四天王像(国宝)が安置され、厳肅な雰囲気漂っている。★拝観400円、時間は大仏殿と同じ、約15分所要
講堂跡●大仏殿の真裏、松林の中に大きな礎石が並んでいる。多くの学僧が励んだところだが、永祿10年(1567)に焼けて以来再建されていない。

転害門●大仏殿の西北、国道369号線に面して建つ3間1戸の壮大な八脚門。東大寺創建当初の貴重な遺構で、国宝指定。
鐘楼●大仏殿の東、俊乗堂・行基堂などが建つ一角にある。鎌倉時代に宋西禅師が建立したといわれ、大仏開眼時から伝わる梵鐘と共に国宝になっている。
三昧堂(四月堂)●鐘楼の上、三月堂の前にある堂(重文)で、旧暦4月に法華三昧会が開かれたので四月堂とも呼ばれている。この北側には開山良弁僧正坐像を安置する開山堂が建っている。



南大門から大仏殿



国宝 金銅八角灯籠

大仏と光背



戒壇院

多宝塔と四天王像だけで500円也



正倉院 しょうそういん

➡大仏殿から^{あぜくら}5分

大仏殿の北、松林の中に独特の校倉造^{あぜくら}が1棟建っている。東西9m・南北31m・高さ13mの天平建築で、もとは東大寺の正倉だったが、今は宮内庁が管理している。内部には聖武天皇の遺品や大仏開眼供養の法具、東大寺に伝わる寺宝



など、約3000点が収められていたが、今は2棟の新宝庫に移されている。宝物の一部は10月下旬～11月上旬に国立博物館で開かれる「正倉院展」で一般公開される。

★校倉の外観の見学無料、10:00～15:00、正倉院展開催日を除く土・日曜・祝日休観



二月堂●一段高い斜面に建つ舞台造の堂（重文）で、3月に修二会（お水取り）が開かれるので知られている。良弁僧正の高弟の実忠が天平勝宝4年（752）に建立したと伝わり、今の堂は寛文9年（1669）の再建で重文になっている。本尊十一面観音は秘仏なので拝観できないが、西側にひろがる奈良市街の展望がすばらしい。

三月堂（法華堂）●東大寺の前身・金鐘寺の竊索堂として天平18年（746）頃に建立された東大寺最古の建物（国宝）。当初は寄棟造の本堂と入母屋造の礼堂が並んでいたが、鎌倉期に中屋根を付けて1棟につないだという。旧暦3月に法華会が開かれるので法華堂となり、三月堂と呼ばれるようになった。堂内には不空竊索観音立像を中央に、日光・月光菩薩像、四天王像、金剛力士像など、国宝・重文の仏像16体が安置されている。★拝観400円、時間は大仏殿と同じ、約15分所要



二月堂

お水取りでよく火事にならないのか、不思議な気がします。



二月堂から奈良市内を望む

手前が開山堂の屋根、その向こうの三角が大仏殿

三月堂



四月堂
正式には三昧堂



鐘楼(国宝)